

部会長巻頭言

～2年目の秋を迎えて～

会員の皆様には、日頃の部会活動へご高配を賜り厚く感謝申し上げます。ニューズレターで毎回「月日が経つのは早いもので」と言う出だして書き始めていましたが、1年半が過ぎ任期もあと半年になりました。

今年3月の第80年会での新しい試みとして初日に産業セッションが企画され、「忘れてはいけない単位操作！ 実用攪拌技術」(講演とポスター発表、交流会)が開催されました。予想を上回る参加者で、講演会は部屋に入りきれないほどの盛況でした。この状況を受けて、INCHEM TOKYOの産学官マッチングフォーラムの初日に「高度化する攪拌技術ー現象の解明から新たな応用までー」の開催が予定されています。一方、9月の秋季大会では、これも新しい企画である部会横断の特別シンポジウムとして、「再生可能エネルギー実装社会のフューチャーデザイン」(システム・情報・シミュレーション部会、エネルギー部会と共催)、「ナノマイクロ熱現象解明による熱利用強化の最前線」(熱工学部会、エネルギー部会と共催)が開催されました。ご尽力・ご協力を賜りました関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

本部会は、産業界との関係も深く、連携して関連分野の発展のために地道な活動を続けています。同時に、時代の変化を意識しつつこれからのさらなる発展に向けて、部会を超えた活動にも積極的に関与しています。現在、学会本部では、部会体制そのものの改革について検討がなされており、近いうちにその方針が出されるものと思います。前回のニューズレターにも書きましたが、最も大事なことは部会員の皆様へどのような還元がなされるのかであろうと思います。来年3月開催の年会時の総会で新しい体制に変わりますが、その時に各分科会との意見交換の場を作りたいと考えています。

(部会長・梶原稔尚(九州大学教授))

2015年度 秋季大会部会幹事会報告

2015年9月9日(水) 12:00-12:50

化学工学会第47回秋季大会 O 会場

議事録は部会のウェブページを参照ください。

1. 前回幹事会議事録の確認(部会長)
2. 2015年度分科会配分の説明(事務局)

3. 2015年度各部会賞の状況の説明(太田副部会長)

4. 平成28年度部会セミナーの開催案(後藤副部会長)

5. IWPI について(鈴木幹事)

2016/9/29-30 に、Cambridge, UK 開催の計画中。次々回 IWPI は台湾を予定。

6. 若手女性育成 PJ は東海支部との共催で2016/1 頃に開催の計画中(西岡幹事)

7. 名誉会員推薦について(部会長)

8. INCHEM TOKYO 2015 での攪拌関係のセッションが実施される。これは第46回秋季大会、第80年会産業セッションで最も聴講者の多かった攪拌関係セッションから企画されている。(部会長)

9. 告知(本間幹事)

関東支部主催、本部会協賛の「第46回 Continuing Education シリーズ講習会/ 多様なものづくりを支える微粒子・微粉体工学の基礎と展開」2015年11月30日(月)

10. 部会共催行事の報告(部会長)

(事務局・名嘉山祥也)

第47回秋季大会セッション報告

【SE-11. <熱物質流体工学の最前線 2015>】

熱物質流体工学分科会の主催で、第47回秋季大会の初日(9月9日)にセッション「熱物質流体工学の最前線 2015」を開催しました。招待講演2件、一般講演17件の合計19件の発表があり、終日盛況の中、活発な議論が行われました。

招待講演では、北海道大学・村井祐一先生より「超音波ドップラーレオメトリーの開発」と題して、種々の流動物質のレオロジー物性を超音波ドップラー法で計測する新しい原理や、食品・化学溶液などの工業プラントのオンラインで物性監視をする技術について、また、北海道大学・折原宏先生より「せん断流および電場下における非相溶高分子ブレンドの3次元構造とレオロジー」と題して、共焦点レーザー顕微鏡を用いて観測した外力場下の非相溶高分子ブレンドの3次元構造変化、および界面テンソルによる構造と応力の関係に関する議論について、それぞれ興味深いご講演をいただきました。

一般講演においては、数値計算研究から実験研究に至るまで移動現象が幅広く網羅され、特に液中の高分子が移動現象に及ぼす影響を扱った

ものが目につきました。また、一般講演のうち学生の発表 11 件は、1 件につき 3 名の審査員で厳正に審査し、当セッションよりプレゼンテーション賞 1 件を推薦しました。

(オーガナイザー・大川原 真一)

【SE-12. <気泡・液滴・微粒子分散工学 2015>】

気泡・液滴・微粒子分散工学分科会主催によるセッション「気泡・液滴・微粒子分散工学 2015」が、第 47 回秋季大会の初日(9 日)および二日目(10 日)の午前中に行われました。展望講演 1 件、一般講演 22 件の合計 23 件の発表があり活発な議論が行われました。展望講演は「マイクロ流路層流系を利用する微粒子の精密湿式分級プロセス」と題して千葉大学・山田真澄氏にご講演を頂きました。一般講演の研究対象は、気泡関連が 10 件で最も多く、次いで液滴の 9 件、固体粒子が 3 件となっています。また、実験が中心の研究が 14 件、数値シミュレーションが中心の研究が 8 件でした。数値解析の基礎理論から分散工学の応用まで、話題のバランスも非常によく参加者にとって有意義なものであったと考えています。次年度も同様なセッションを企画する予定です。粒子・流体プロセス部会会員の皆様の積極的なご参加を期待しています。

(オーガナイザー・本間 俊司)

【SE-13. <革新的粉粒体プロセス技術の進展－基礎現象、基礎技術から単位操作、応用事例まで－】

前回の秋季大会に引続き、第 47 回秋季大会で行いましたセッション「革新的粉粒体プロセス技術の進展－基礎現象、基礎技術から単位操作、応用事例まで－」は、粉体プロセス分科会と流動層分科会の共催で企画しました。微粒子、粉粒体、エアロゾルを取り扱う粉粒体プロセス技術の重要性は増々高まっていることから、基盤技術を構築するための基礎的研究から実用性に重点を置いた応用研究までを講演対象とし、最近の革新的な研究成果を募りました。

秋季大会初日および 2 日目の 2 日間にわたって 3 件の優秀論文受賞講演を含む 24 件の講演から成るセッションを開催できました。

1 日目は、2 件の優秀論文受賞講演、バグフィルタや流動層、分級などの機械的な単位操作に関する講演や粉粒体プロセスを利用した廃棄物リサイクルプロセスに関する講演などが行われました。2 日目は、1 件の優秀論文受賞講演、粉砕を利用した粒子合成や環境プロセスに関する研究、離散

要素法による粉体操作の解析や CFD による燃焼反応装置の解析などシミュレーションを用いた研究成果が主に報告されました。

本セッションの企画意図に則った基礎技術から応用事例まで幅広い研究成果の発表と活発な討論が繰り広げられました。

なお、座長、オーガナイザー、両分科会役員で厳正に審査した結果、1 件の発表をプレゼンテーション賞候補として本セッションから推薦致しました。最後に、セッションで活発な討論を行って頂いた参加者の皆様、賞審査にご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

(オーガナイザー・福井国博)

【SE-14. <ミキシング技術の基礎と応用>】

近年、攪拌・混合に関する研究が幅広くなっていることから、シンプルに「ミキシング技術の基礎と応用」と題し、ミキシング技術分科会主催セッションを開催致しました。秋季大会二日目(10 日)に展望講演 1 件、一般講演 12 件の合計 13 件の発表が行われました。

展望講演では「攪拌翼からの流れと諸現象」と題し、横浜国立大学准教授・仁志和彦先生より、近年重点的に取り組まれておられる起動トルクおよび偏心攪拌のご研究についてご講演いただきました。発表では、過渡的な現象を説明するため LES による CFD 結果を用い、起動トルクとの関係性を分かりやすく説明されました。一般講演では大型翼や非ニュートン流体の攪拌、気液・液液攪拌、特殊装置など、アカデミックな内容から実践的なものまで幅広い発表があり、活発な議論が行われました。

なお、学生の口頭発表 8 件を座長とオーガナイザーで審査した結果、1 件の発表をプレゼンテーション賞候補として推薦致しました。

最後に、オーガナイザーを代表して、セッションの発表者の皆様、場を盛り上げて頂きました参加者の皆様、進行およびプレゼンテーション賞の審査にご協力頂きました座長の皆様に感謝申し上げます。

(オーガナイザー・鈴川一己)

2014 年度粒子・流体プロセス部会賞 (奨励賞・プレゼンテーション賞)の状況

化学工学会第 47 回秋季大会における粒子・流体プロセス部会関連企画のセッション「SE-11 熱物質流体工学の最前線 2015」、「SE-12 気泡・液滴・微粒子分散工学 2015」、「SE-13 革新的粉粒体プロセス技術の進展－基礎現象、基礎技術

から単位操作、応用事例まで」、 「SE-14 ミキシング技術の基礎と応用」での発表を対象として、シンポジウム賞(奨励賞とプレゼンテーション賞)が選考されました。奨励賞は、審査を希望する37歳未満の正会員の発表を対象とし、プレゼンテーション賞は、社会人博士課程在籍者を除く学生会員による全発表を審査対象としました。厳正な審査の結果、下記の方々の受賞が決まりました。

○奨励賞

石原 真吾(東北大学多元物質科学研究所)
「ADEMによる弾塑性解析のモデリング」

○プレゼンテーション賞

金城 勝大(東京工業大学)
「螺旋型ミニチャネルによる粗粒の分離・分級」
(指導教員:大川原 真一)

谷川 拓馬(九州大学)
「自由表面の変形を考慮したインクジェット液滴の薄膜形成過程の数値解析」
(指導教員:深井 潤)

田口 智文(東京工業大学)
「噴霧熱分解法による磷酸コバルトリチウムの合成とその形態制御」
(指導教員:谷口 泉)

増田 勇人(神戸大学)
「テイラー・クエット流装置におけるCarreauモデル流体の代表粘度およびせん断速度」
(指導教員:大村 直人)

受賞者の皆様、誠におめでとうございます。

なお、「プレゼンテーション賞」の受賞者には、賞状ならびに副賞としてのフォルダーが贈呈されました。最後になりましたが、審査にご協力を頂きました各位に紙面をお借りし、厚く御礼申し上げます。

(担当・本間俊司)

2014年度粒子・流体プロセス部会 (フロンティア賞)の状況

化学工学論文集 *J. Chem. Eng. Japan* など化学工学に関連する国内外の学術雑誌に掲載された論文のうち、本部会会員が著者となっており、特にフロンティア性の高い優秀な研究論文に対して与えられるのが本賞です。本賞は2008年度に創設され、2014年度は2件の論文に授与されており、

これまでに合計7件の論文に授与されております。

2015年度は、2014年9月より2015年8月までに掲載された論文を対象として、9月25日締切で募集を行いました。その結果、3件の応募があり、各分科会から選出された選考委員で構成される選考委員会で現在審査を行っている状況です。

本ニューズレターが発行される頃には受賞論文が決定されると思います。本賞の受賞論文は、次会年会にあわせて行われる部会総会・部会セミナーで表彰式と受賞講演が行われる予定です。

次年度も本賞への皆様からの積極的なご応募をお待ち致しております。

(担当・福井国博)

2014年度粒子・流体プロセス部会賞 (動画賞)の状況

2014年度動画賞は、化学工学会第47回秋季大会(北海道大学)で開催された以下のセッションにおいて発表された内容を対象に募集しました。

SE-11 熱物質流体工学の最前線 2015

SE-12 気泡・液滴・微粒子分散工学 2015

SE-13 革新的粉粒体プロセス技術の進展ー基礎現象、基礎技術から単位操作、応用事例までー

SE-14 ミキシング技術の基礎と応用

審査委員会を結成後、厳正な審査を行い、本年11月末を目途に受賞作品を決定します。本動画賞は、研究、技術、教育の各部門で授与されます。表彰式と作品鑑賞会は化学工学会第81年会時に行われる予定です。なお、受賞作品は部会HPにもリンクしますので、過去の受賞作品と合わせて会員の皆様にご覧頂ければ幸いです。

(担当・吉本 誠)

2015年度粒子・流体プロセス部会賞 (技術賞)の状況

現在、粒子・流体プロセス部会技術賞の募集を行っております。自薦・他薦は問いません。応募締切は11月20日(金)です。

以下のホームページよりPDFファイルの応募用紙をダウンロードできます。

<http://www2.scej.org/partluid/data/hyosho/Gijutsu/gijutsu.php>

Word形式の応募用紙をお渡しすることも可能ですので、技術賞担当までお問い合わせください(10月21日付の部会事務局からの再アナウンスのメールにも添付されております)。部会会員の皆様からの多数のご応募をお待ちしております。

(担当・中里 勉)

平成 28 年度部会セミナー

- ご存じのように、2014年度より部会セミナーは、
- 年会の前日に、年会開催地にて開催する。
 - 部会セミナーだけでなく、部会総会も合わせて開催する。
 - 部会セミナーとして、各賞受賞講演会とする。

という形式で開催されてきました。この形式に従って次回の部会セミナーの開催を予定しておりましたが、2016年3月に開催される第81年会は3月13日(日)から15日(火)までとなっており、その前日となる3月12日は多くの大学で個別学力試験後期日程にあたります。このため、北海道大学での第47回秋季大会会期中に開催された部会幹事会におきまして、次回の部会セミナーは年会終了後の3月16日(水)に開催することといたしました。

部会セミナー当日には、これまでは部会幹事会と、部会賞表彰式を含む部会総会も開催しておりました。これらはいずれもセミナーの前に開催されておりましたが、次回もそれに倣うと、3月16日の朝から始めても、午後にもセミナーを開催することになります。そこで先の部会幹事会では、次回部会幹事会を年会会期中に開催することとし、3月16日は総会と部会セミナーのみで、午前中で終了するように計画しております。

しかし、現時点では、部会幹事会の開催日程だけでなく、部会セミナーの講演者となる部会賞各賞の受賞者も決定しておりませんので、お知らせできる概要は以下の通りです。

【2015 年度部会総会・部会セミナー概要】

- ・日時:平成 28 年 3 月 16 日(水)
9:00~12:00 頃
- ・場所:化学工学第 81 年会会場周辺
- ・スケジュール:
9:00~10:00 部会総会
(各賞授賞式を含む)
10:00~12:00 頃 部会セミナー(講演会)
奨励賞受賞者講演
フロンティア賞受賞者講演
技術賞受賞者講演
動画賞受賞者講演および動画上映

以上

今後開催場所、スケジュール等の詳細が決まりましたら、電子メールにて皆様にお知らせいたします。まずは、第 81 年会翌日の午前に部会セ

ミナーご参加を予定していただけますようお願いいたします。

(担当・後藤副部長)

国際会議 IWPI

International Workshop on Process Intensification (IWPI)は2016年9月28-29日に、Manchester, UK で開催される予定です。詳細が決まり次第、ニュースレターあるいは部会ホームページにてお知らせいたします。

(国際会議担当・鈴木洋)

若手女性育成 PJ

本PJは、若手研究者および技術者の育成を図るため、企業で活躍中の若手・女性技術者と直接交流することによって、男女を問わず卒業後のキャリアパスに対するイメージアップを図ることを目的としています。また、企業の若手・女性研究者相互の対話を通じて、本分野の研究の活性化と育成を支援する企画です。

今年度は、東海支部との共催行事として開催し、概要は以下の通りです。

2月19日(金) 13:00 受付開始(三井化学厚生会館:名古屋市南区名鉄大同町駅前)
13:30~15:00 工場見学(東亜合成名古屋工場)
15:00~15:40 「研究は正確な観察・解析からはじまる~研究と家庭の両立のための工夫~」豊橋技術科学大学 教授 中野裕美先生(三井化学厚生会館)

15:40~16:40(三井化学・東亜合成より3件講演)

17:00~19:00 交流会(三井化学厚生会館)

近隣大学の修士・学部学生や博士課程学生、若手PDの方々、及び、近隣企業の若手研究者、女性研究者の方々のご参加をお願い致します。もちろん、東海支部以外の大学や企業からのご参加も大歓迎です。

(若手女性育成プロジェクト担当・記:西岡光利)

分科会からのお知らせ

気泡・液滴・微粒子分散工学分科会

最近および今後の分科会活動をご紹介します。まず、本分科会と関連の深いファインバブル(ナノバブルおよびマイクロバブルの総称)に関連して、2015年4月1日にファインバブル学会連合(The Union of Fine Bubble Scientists and Engineers)が発足しました。本学会連合は「ファインバブル」に関連する学協会内の専門家組織(部会、分科会、研究会、工業会など)を横断的に提

携し、それぞれの科学技術研究開発活動に関する情報交換を密接に行う拠点およびコミュニティを担います。本分科会も発足団体のひとつとして参加しています。連合会の詳細についてはホームページ(<http://www.fb-union.org/>)をご覧ください。なお、11月27日には学会連合の発足を記念し「ファインバブル学会連合シンポジウム」を開催します。詳細については後述の案内をご覧ください。

第47回秋季大会においては、セッション「気泡・液滴・微粒子分散工学 2015」を企画した他、恒例の気液固分散工学サロンを初日(9日)の夕方に開催しました。第13回となる今回は、日本大学生物資源科学部食品生命学科の石神徹先生に「固液ならびに液液分散系の膜細孔透過に関する直接数値シミュレーション」と題し講演を頂きました。講演は、気液固分散と直接関連した非常に興味深い内容で、講演後のディスカッションも活発に行われました。

今後、分科会が共催および協賛する行事は以下のとおりです。

<第3回混相流に関する最先端科学技術シンポジウム>

日時:2015年11月20日(金) 13:00~20:00

会場:株式会社構造計画研究所 本所新館 地下1階「レクチャールーム」

講演:

- ・ファインバブルの基礎と工業利用(寺坂宏一・慶大)
- ・粒子分散プロセスのレオロジー解析(菰田悦之・神戸大)
- ・アルカリ溶解会合性高分子溶液中を上昇する気泡の特異性(太田光浩・徳島大)
- ・高精度粒子法による流体シミュレーションの展開(後藤仁志・京大)
- ・湿式ジェットミルによるナノ粒子の分散(藤正督・名工大)
- ・最新の粉体シミュレーション技術の紹介と産業応用(酒井幹夫・東京大学)

Web: <http://dem.t.u-tokyo.ac.jp/yayoi.html>

<第1回ファインバブル学会連合シンポジウム>

日時:2015年11月27日(金) 10:00-17:05

会場:大阪大学 銀杏会館 3階 阪急電鉄・三和銀行ホール

講演:

- ・ファインバブルを利用した化学工学的なアプローチ(寺坂宏一・慶大/化学工学会 気泡・液

滴・微粒子分散工学分科会)

- ・ファインバブルによる生態系への影響(氷室昭三・有明高専/日本混相流学会 マイクロバブル・ナノバブル技術分科会)
- ・ファインバブルが関与する反応場の魅力と工学的な活用法(尾上薫・千葉工大/化学工学会 反応場の工学分科会)
- ・ファインバブルの流動特性と資源・環境分野への活用(安田啓司・名大/日本ソノケミストリー学会)
- ・疎水性物質の付着によるウルトラファインバブルの安定化(安井久一・産総研/日本ソノケミストリー学会)
- ・ファインバブルの国際標準化を支える研究成果(矢部彰・NEDO/ファインバブル産業会)

Web: <http://www.fb-union.org/sympo.html>

<第7回ファインバブル技術講習会~ファインバブル技術の最新動向と計測技術の実演~>

日時:2015年12月18日(火) 9:50~18:30

会場:大阪科学技術センター8F

講演:

- ・マルチスケール混相流方程式によるマイクロバブル合一・反発挙動解析の試み(功刀資彰・京大)
- ・ファインバブルによる管内摩擦抵抗低減技術とファインバブルの植物栽培への適用(南川久人・滋賀県立大)
- ・ファインバブルを活用した排水処理とマイクロバブル生成(安田啓司・名大)
- ・ループ流式 OK ノズルの特徴と応用事例(松永大・OKエンジニアリング)
- ・CellAquaSS01 で生成した酸素微細気泡水の特性とバイオフィルムへの適用と浸透殺菌効果(岡徹・サンスター)

Web: <http://www.kinka.or.jp/semina/H27fb.html>

各行事の詳細および参加申込はそれぞれのWebページをご参照ください。皆様の積極的な参加をお待ちしております。

(分科会代表・本間俊司)

流動層分科会

13号ですすでにご案内済みですが、第21回流動化・粒子プロセッシングシンポジウム(FB21)が2015年12月10日(木)~11日(金)に九州工業大学戸畑キャンパス百周年中村記念館(福岡県北九州市戸畑区仙水町1-1)にて行われます。

<http://www.che.kyutech.ac.jp/chem21/FB-21/over>

view.html

一方、来年は3年に1度開催される Fluidization がカナダ・Quebec 州 Montebello で開催されます。<http://www.engconf.org/conferences/chemical-engineering/fluidization-xv/> 口答発表の申し込みが 10 月 15 日から 11 月 16 日に延期されています。(ポスター発表の申し込みは当初より 11 月 16 日です) 最近では日本から発表者、参加者が少ないようで、特に継続的に参加されている方は少ないようです。発表申し込みが延期されていますので、ぜひ検討をお願いいたします。

(分科会代表・桑木 賢也)

熱物質流体工学分科会

2015 年度分科会行事のご報告とご案内をさせていただきます。

<熱物質流体工学セミナー2015>

例年通り、化学工学会秋季大会前日の 9 月 8 日に、北海道大学工学部 A101 室にて熱物質流体工学セミナー2015 を開催しました。本年度は、北海道大学・小林一道先生より「気液界面で生じる相変化現象の分子流体力学を用いた解析と気泡力学への展開」と題して、また、京都大学・吉元健治先生より「次世代半導体製造プロセスで用いられる誘導自己組織化に関するシミュレーション」と題してご講演をいただきました。お二方とも分子スケールの現象を対象としたお話で、非常に興味深く、また、参加者の皆様の今後の研究のヒントとなったものと思われます。

<化学工学会第 47 回秋季大会セッション SE-11. 熱物質流体工学の最前線 2015>

本号にて既にご報告した通り、大会初日に北海道大学にてセッションを開催しました。

<International Workshop on Process Intensification 2016>

本分科会が中心になって運営して参りました国際シンポジウム International Workshop on Process Intensification (IWPI) が次回は 2016 年 9 月にイギリスで開催されます。皆様、奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

<熱物質流体工学分科会総会>

関西大学千里山キャンパスにて 2016 年 3 月 13 日(日)~15 日(火)の日程で開催される化学工学会第 81 年会の会期中に分科会総会を開催する予定です。

(分科会代表・大川原真一)

粉体プロセス分科会

当分科会は、秋季大会のセッションを主たる行事として運営しております。平成 27 年度は、北海道大学において開催された第 47 回秋季大会にて「革新的粉体プロセス技術の進展－基礎現象、基礎技術から単位操作、応用事例まで－」と題したセッションを流動層分科会と共催しました。本セッションの概要は別項で報告しております。

2015 年 9 月 14-15 日韓国ソウルで行われた「Korea-Japan Joint Symposium on Powder Technology and ICRA Asian Chapter Workshop」を協賛しました。11 月 16 日に東北大学多元物質科学研究所で行われる「第 2 回機能性粉体プロセス研究会」、11 月 19 日北海道立総合研究機構で行われる「2015 年度微粒子工学講演会」を当分科会が共催しております。分科会会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

また、10 月 23 日に、分科会主催行事として「第 2 回粉体プロセス工学セミナー」を広島大学東広島キャンパスで行いました。なお、講演内容は以下に示す通りであり、38 名の皆様に参加頂き、盛会裡に終了しました。

「Microscopic and Macroscopic Investigation on Particle Segregation」

(Chang Gung 大学) Hsiu-Po Kuo 氏
「エアフィルタ、バグフィルタによる微粒子捕集－類似性と相違点－」

(金沢大学 名誉教授) 金岡千嘉男 氏
「微小粒子添加による粒子流動性向上効果に対する実験的および計算力学的検討」

(岡山大学) 吉田幹生 氏



粉体プロセス工学セミナーの様子

当分科会では、粉体プロセスに関するシンポジウムや研究会等各種行事に対して積極的に共催、協賛しておりますので、ご依頼がございましたら、幹事までご一報ください。

(分科会代表・福井国博)

部会への入会方法

■化学工学会の個人会員の方は、化学工学会HP(<http://www.scej.org/>)の「各種申込>部会入会」より、お申し込み下さい。eメールなどの変更も、化学工学会HPで行えます。

■化学工学会の会員(法人・個人)でない法人あるいは個人の方で、本部会の法人特別会員、特別個人会員入会をご希望の方は、下記の粒子・流体プロセス部会事務局までご連絡下さい。

■分科会への入退会は、部会事務局へご連絡下さい。

■本部会の法人特別会員、特別個人会員の方で、eメール等の変更は事務局までお知らせ下さい。

■詳しくは

<http://www2.scej.org/partfluid/nyukai.php> をご覧ください。

Phone/Fax: (092)802-2756

E-mail: scej.fpp+membership@gmail.com

(事務局・名嘉山祥也)

部会ニュースレター編集後記

本ニュースレターの編集集中に加納研の石原助教が奨励賞を受賞したという原稿が入り飛び上がって喜びました。今後もこのニュースレターにて活動の報告や今後の行事予定などをお知らせしていきたいと思えます。部会会員の皆様からのご意見やご寄稿をお待ちしております。

(ニュースレター担当・加納純也・大川原真一)